
KAGUYA 時は何時頃？

鎌堂成久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

KAGUYA 時は何時頃？

【Zコード】

Z9404A

【作者名】

鎌堂成久

【あらすじ】

「かぐや姫」に出てきた名前だけのキャラクターたちが現代で大暴れ！しかし、かぐや姫の名を襲名している少女・天草赫耶と帝が前世と言われて混乱する主人公・上天多斗知。赫耶がある日、斗知の通う私立高校に編入ってきて、岬奈加（中将）や坂下薰（女中！？）、本田タキ（大伴の大納言！！）も交えて何がなんだかわからぬ！不思議な現代ラブコメファンタジー。

あーべーとーわんつ！『やつぱ、出でにひしょ』

俺は上天多斗知。年齢は15歳。歳若き青春真っ只中の高1男子。俺が自慢できるのは、難関私立中学に受かつてそこから他の難関高校を無駄に受験した、ということ。その詳細はとくと
それもまあ、内申書もはつきり言つて書かれた内容は「ミミ箱寸前
かそれから先の「ご愁傷様」くらいの紙クズだつた。
つつても「私立」だから裏からいぐらでも手を回して札束積めば
入れるだろう。しかし、俺の家というのも裕福でもないからやつ
ぱり「ただの紙」だけが道だつたらしい。

そうやつて見事に受かつたのが自慢なわけだが。

あと、俺がこの15歳の8月17日付けまでの「恥ずかしいエピ
ソード」の極めつけは、「俺の前世がかぐや姫の帝」ってヤツだ。

「むむつ！ これはすごい……あなたは帝だ！」

なんとなく、ただ暇だつたから道端の占い屋に入つてみた。そし
たら、そんなことを言われる始末！ なんてありえなかつたから、
俺も一言

「なんこと、ありえるかあつ」

と、卓袱台にも似た占い机をひっくり返した。

「なつ？！ ワタシの占い信じないアルか？！ 御代は要らねえ！
他んどこで占つて来いアルね！！」

それまでのフードを下ろして全身を真っ黒いその装束、そして声
もテナーくらいだったのに、あらわになつた占い師のボディはグラ
ビア並だつた。声もよく透るアルトボイスで俺は一瞬だけ呆けた。
でも、やつぱり一瞬だけだ。

「んじやあな、『アルアルちゃん』！」

「んだとお！ 首絞めたろアルか／＼！？」
あー残念。それがいけないんだ……アルアルちゃんがモデルにな
れないのは、その言葉遣いのせいだよ……。

内心（たまげた、たまげたあ）と咳きながら早々にそこを立ち去つた。

次に入ったところは若者に人気のあるといつ易者だつた。

「どうも、よろしく……」

「君、さつき100m離れたところで言い争つてなかつたかい？」

につこりと涼しいイメージの笑顔な青年占い師が言った。

「いや、俺はそういうつもりないんですけど？」

「じゃ、占いたい内容は？」

うまくもなにもなく、それは完全なるスルー。この世でもつとも酷い行動。それじゃまるで会話が成り立たないに決まつている。

それをやられたのは俺だけなのか……。いや、俺だけ、な、ハズ。

「今、物凄く疑つている、前世を……」

ドスを効かせて占い師を見つめると、すでに相手は俺の瞳の奥に茶色が買つた瞳でなにか悟つた様子。

「 帝、です。以上」

俺から視線を外してまた一度それを俺へと走らせた。なにか冷たいものを感じたのは気のせいいか？

「 ちよつ！」

「 はい、次の方どうぞ！」

無視です。ナイスな無視です。上手いです。冷たいです。占い師さん、いつぺん逝つてしましょう！

俺がその状況に実況を入れるとコレだ。

（ゼッテエ、占いなんてしない！）

そう決意したけれど、青年占い師は何かのトリックを使ってアルアルちゃんと俺の会話を知つた。ん~、間違いない。

例えば

「 盗聴器をしかけてたので料金は要りませんからね～」と聽こえた。青年易者の……声

「 つて！？ やっぱり、そうじやねえか！！」

そのエセさに俺の形相は並みじやない、大盛りでもない。鬼盛り

だ。

「鬼がたくさん盛られたやつですか？」

「なんで心の声が聴こえてるんだ！？」

美男と野獣なら占い師が美男で野獣が俺か。つてどんな話だよ、
それ！？

「ホモの話です」

一体何なんか占い師の耳が紅潮している。

「やっぱり話が噛み合わねえ！」

一連の会話を続けて聞いていると明らかにおかしい。

俺はその場所から早足で家へと向かった。

やっぱり毎日が災難ばかりなのが、俺なのか……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9404a/>

KAGUYA 時は何時頃？

2010年10月28日04時32分発行